

# キャッシュ・フロー計算書

第49期（平成14年4月1日から平成15年3月31日まで）

（単位：千円）

科 目	金 額
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	1,110,552
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,051,636
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 289,327
IV 現金及び現金同等物の減少額	△ 230,411
V 現金及び現金同等物期首残高	1,524,540
VI 現金及び現金同等物期末残高	1,294,129

# 利益処分

第49期（平成15年6月27日承認）

（単位：円）

科 目	金 額
I 当 期 未 処 分 利 益	238,706,270
II 任 意 積 立 金 取 崩 高 固定資産圧縮積立金取崩高	6,386,638
合 計	245,092,908
これを次のとおり処分いたしました。	
III 利 益 処 分 額	157,083,487
1. 利 益 配 当 金 （1株につき5円00銭）	21,517,500
2. 任 意 積 立 金 固定資産圧縮積立金調整額 別 途 積 立 金	5,565,987 130,000,000
IV 次 期 繰 越 利 益	88,009,421

(注) 1. 固定資産圧縮積立金取崩高は租税特別措置法に基づくものであります。  
2. 固定資産圧縮積立金調整額は、税効果会計における法定実効税率の変更に伴う増額であります。



株式会社 **スガイ**・エンタテインメント

〒060-0063 札幌市中央区南3条西1丁目8番地  
TEL011-241-3951

# 事業報告書

## 第49期

（平成14年4月1日から平成15年3月31日まで）

**SUGAI ENTERTAINMENT CO., LTD.**

## 営業の概況

アミューズメント施設業界におきましては、携帯電話通信料負担の軽減等による若年層の消費構造の変化、並びにデフレによる景気低迷の中「安い・近い・楽しい」室内レジャーが見直されたことなどを背景に、全般的に比較的好調に推移しました。ゲームにおきましてはサッカークラブチームの育成ゲーム「ワールドクラブ チャンピオンフットボール セリエA 2001-2002」のヒットなど、ボウリングにおきましてはボウリングを題材にしたテレビドラマやバラエティ番組の放映効果などにより好調に推移しました。映画興行界におきましては、シネマコンプレックスの増加によりスクリーン数が増したにもかかわらず、大ヒット作が目白押しだった前期の反動減により市場規模は若干減少しました。

このような中、当社は、ヒットゲーム機の積極的な導入、既存施設のリニューアル実施などの活性化を図りました。

当期の売上高につきましては、前期の反動減や老朽化映画館の閉鎖に伴う映画部門の売上減や、釧路スガイビルのリニューアル工事による一時休業などがありました。また、札幌スガイビル2～4階のリニューアル効果やゲーム・ボウリング部門での売上増により、63億7百万円（前期比2.1%増）と前期に引続き増収となりました。

経常利益につきましては、比較的利益率の高いゲーム・ボウリング部門の売上が増加し、利益率の低い映画部門の売上シェアが低下したことなどの理由により、3億79百万円（前期比130.7%増）と大幅増益となりました。当期利益につきましても、旭川劇場の閉鎖解体、大型アトラクション機械の撤去に伴うリース解約、投資有価証券評価損などの特別損失1億9百万円がありましたが、1億52百万円（前期比32.5%増）と、前期に引き続き増益となりました。

### 部門別の概況

（アミューズメント施設部門）

ゲーム部門におきましては、札幌スガイビルを中心に写真シール機（プリクラ）・メダルゲーム等が好調に推移したこと、大型ヒットゲーム機「ワールドクラブ チ

ャンピオンフットボール セリエA 2001-2002」を大型店5店に導入したことなどにより、売上高は前期比12.0%増と大きく上回りました。

ボウリング部門におきましては、テレビでのドラマやCMでボウリングが多くとりあげられた効果に加えて、団体勧誘活動の強化や顧客のファン化（スガイファンクラブ会員）の促進などの努力が実を結んだことにより、売上高は前期比9.4%増と上回りました。

カラオケ部門につきましては、札幌スガイビルやスガイディノスなどの大型店は好調に推移したものの、1店舗の閉鎖と競合店の増加の影響等により前期比4.5%減となりました。

その他部門につきましては、ネットカフェを含むマンガ喫茶の伸び悩みがありましたが、ビリヤードが札幌スガイビルなどの大型店は好調に推移し、前期比4.0%増となりました。また平成14年12月に札幌の既存店において、ビリヤード・カラオケ・マンガ喫茶・ネットカフェを全て15分100円で利用できる新システムをスタートさせるなどの新たな試みにチャレンジしております。

以上の結果、アミューズメント施設部門売上高は、52億33百万円（前期比9.0%増）となりました。

（映画興行部門）  
映画興行部門につきましては、老朽化映画館閉鎖の影響（釧路地区3スクリーン平成14年4月閉鎖、旭川地区1スクリーン平成15年1月閉鎖）、大ヒット作が目白押しだった前期の反動減、加えて札幌・旭川・函館における他社シネマコンプレックス出店による競争激化等により、映画興行部門売上高は7億22百万円（前期比29.6%減）と減収となりました。

（レンタル・リサイクル事業部門）

ビデオレンタルと中古ソフトの買取販売を営むGEOショップにつきましては、前期までは順調に売上を伸ばしつつおりましたが、競合店の増加、並びに後半から、売上重視よりも利益重視に方針を変更したことにより、売上の伸び率が低下し、レンタル・リサイクル事業部門売上高は、3億32百万円（前期比2.8%増）となりました。

# 貸借対照表

(単位：千円)

資産の部			負債及び資本の部			
科目	金額		科目	金額		
	第49期 平成15年3月31日現在	第48期 平成14年3月31日現在		第49期 平成15年3月31日現在	第48期 平成14年3月31日現在	
流動資産	1,690,430	1,895,973	流動負債	2,102,181	1,731,301	
現金預金	1,295,929	1,526,340	買掛金	77,424	131,526	
売掛金	40,841	40,752	短期借入金	420,000	-	
有価証券	130,416	130,347	一年以内返済予定借入金	1,052,490	1,168,335	
商品	58,178	53,421	未払金	268,456	270,987	
貯蔵品	35,292	32,703	未払費用	43,086	38,244	
前払費用	53,728	41,115	未払法人税等	135,497	17,258	
繰延税金資産	61,971	51,628	未払消費税等	40,955	35,581	
未収入金	11,327	15,148	前払費用	2,087	3,892	
その他	2,913	4,583	未償還リース料	12,728	12,242	
貸倒引当金	△ 170	△ 69	賞与引当金	49,436	53,203	
固定資産	12,797,910	12,674,527	その他負債	18	29	
有形固定資産	11,151,860	11,447,243	固定負債	6,046,814	6,609,220	
建物	4,995,508	5,260,324	長期借入金	5,695,821	6,259,932	
構築物	66,849	78,437	長期未払金	15,820	-	
機械装置	60,917	71,941	繰延税金負債	32,627	55,066	
アミューズメント機器	709,701	711,680	退職給付引当金	162,243	160,769	
レンタル用資産	24,787	27,913	役員退職慰労引当金	131,441	124,592	
車輜運搬具	215	215	預り金	8,859	8,859	
工具器具備品	90,804	93,654	負債合計	8,148,996	8,340,522	
土地	5,203,075	5,203,075	資本	-	948,775	
無形固定資産	8,283	33,827	法定準備金	-	1,189,995	
借地権	-	24,700	資本準備金	-	1,128,995	
電話加入権	8,024	8,024	利益準備金	-	61,000	
ソフトウェア	258	1,102	剰余金	-	4,076,598	
投資等	1,637,767	1,193,457	任意積立金	-	3,877,982	
投資有価証券	115,223	90,112	固定資産圧縮積立金	-	207,982	
出資金	576	576	別途積立金	-	3,670,000	
従業員長期貸付金	490	952	未処分利益	-	198,616	
長期前払費用	16	216	(うち当期利益)	(-)	(115,152)	
差入保証金	1,099,458	1,101,275	その他有価証券	-	-	
仮払建設協力金	422,000	-	評価差額金	-	14,610	
その他	2	324	資本合計	-	6,229,979	
貸倒引当金	-	△ 1	資本剰余金	948,775	-	
資産合計	14,488,340	14,570,501	資本準備金	1,128,995	-	
			資本準備金	1,128,995	-	
			利益剰余金	4,261,473	-	
			利益準備金	61,000	-	
			任意積立金	3,961,767	-	
			固定資産圧縮積立金	201,767	-	
			別途積立金	3,760,000	-	
			当期未処分利益	238,706	-	
			(うち当期利益)	(152,592)	(-)	
			株式等評価差額金	99	-	
			資本合計	6,339,343	-	
			負債及び資本合計	14,488,340	14,570,501	

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

# 損益計算書

(単位：千円)

科目		金額		
		第49期 平成14年4月1日から 平成15年3月31日まで	第48期 平成13年4月1日から 平成14年3月31日まで	
経常損益の部	営業損益の部	営業収益	6,307,311	6,178,160
		売上高	6,307,311	6,178,160
		営業費用	5,709,237	5,805,776
		売上原価	4,994,868	5,105,732
		販売費及び一般管理費	714,369	700,043
	営業利益	598,074	372,384	
	営業外損益の部	営業外収益	8,468	9,793
		受取利息及び配当金	1,215	1,118
		アミューズメント機器売却益	345	661
		保険金収入	2,492	3,966
損害賠償収入		2,095	-	
営業外費用	226,602	217,513		
支払利息	164,796	171,471		
有価証券売却損	-	17,227		
アミューズメント機器処分損	61,202	27,085		
その他	604	1,727		
経常利益	379,939	164,664		
特別損益の部	特別利益	-	50,234	
	土地売却益	-	-	
	退職給付引当金戻入額	1,008	-	
	特別利益計	1,008	50,234	
	特別損失	-	66,927	
	固定資産売却損	37,245	52,323	
	固定資産除却損	177	-	
	投資有価証券売却損	16,361	-	
	投資有価証券評価損	33,438	-	
	リース解約損	22,700	-	
借地権償却損	-	1,000		
出資金評価損	-	-		
特別損失計	109,922	120,250		
税引前当期利益	271,025	94,647		
法人税、住民税及び事業税	140,702	17,416		
法人税等調整額	△ 22,269	△ 37,921		
当期繰越利益	152,592	115,152		
前期繰越利益	86,113	83,463		
当期末処分利益	238,706	198,616		

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

(第49期) 1.有形固定資産の減価償却累計額 10,382,735千円  
 貸借対照表 2. 1株当たり当期利益 35円46銭  
 の注記 3. 旧商法290条第1項第6号に規定する純資産額 99千円